

# RET'S PRESS

Close-up!

## かとうかなこ

アコーディオンで描く色とりどりの世界

Let'sチャレンジ  
キャンペーン2007  
当選者発表

Face to Face  
パイオニアたちの声  
(第18回)

9  
2007  
SEPTEMBER

今月のスコア

コード&メロディー譜

「EVERYTHING」

ピアノ譜

「ラジオ・スターの悲劇

(VIDEO KILLED THE RADIO STAR)」

オルガン譜

「Sora」

RMS NEWS



Roland

か  
と  
う  
か  
な  
こ

## アコーディオンで描く色とりどりの世界

フランスでは100年近くもの間人気を保ってきたクロマチックアコーディオン。日本ではまだなじみの薄いこの楽器を抱えて、ホールでのコンサートや病院の慰問など、日本全国のさまざまな場所で演奏活動を展開しているアコーディオニストかとうかなこ。人知れぬ努力の跡を表に出すことなく、多忙を極めながらも飄々として、素直に音楽を楽しんでいるという印象を受ける彼女の心の余裕は、いったいどこからくるのだろうか。

Close-up!

INTERVIEW：坂本 信  
PHOTO：山本博道

### 幼いときからずっとそばにあったアコーディオン

—新作の『独奏 Dokusou』は、かとうさんにとっては4枚目のアルバムになりますが、タイトル通り独奏による作品というのはこれが初めてなんですね。

かとう：ええ。今までのアルバムでは、ほかの楽器と一緒に演奏していたので、今回はシンプルに、アコーディオンの音を前面に出したいなと思ったんです。

—アンサンプルのアルバムを先に発表したのは、アコーディオンのいろいろな可能性をみんなに知ってもらいたかったという意図もあったのでしょうか。

かとう：1枚目については、そういうことは考えていませんでした。フランス留学から帰ってきてすぐに出したので、その時点で自分に表現できるものを集めたんです。フランスで直接接したミュゼット（フランスの民族舞踊）、先生のオリジナル、そして産まれて初めて書いた自分自身のオリジナル。当時の自分をひとつの形にしました。

—もともとどんな音楽が好きだったんですか。

かとう：昔から特定のジャンルが好きということはありませんでした。それは今でも変わらず、ミュゼットも好きだし、クラシックもいいなと思います。



#### 『独奏 Dokusou』

TAKI'S FACTORY TAKI-6002  
¥1,500円（税込）8/27発売

1. Piece dans le style ancien  
（古いスタイルの曲）
2. 楽器あそび
3. chercher（シェルシェ）
4. 1人大地を歩く

## Profile かとうかなこ

クロマチックアコーディオンプレイヤー。1979年生まれ。大阪府豊中市出身。4歳からアコーディオンを始める。17歳で「全日本アコーディオンコンクール」総合優勝。高校卒業後すぐにフランスに渡り、在学中には「全仏コンクール」でも第1位を獲得。帰国後、沢田研二・藤山直美の音楽劇で共演。2002年ラジオの特別番組で、リチャール・ガリアーノやクレモンティーヌとのセッションを行なう。リリースしたアルバムの楽曲は、多くのテレビ番組で取り上げられている。また、NTTドコモのラジオCMにも楽曲を提供。そのほか、オリジナルを中心にライブを展開中。80歳を過ぎてでも演奏し続けることが目標。  
【オフィシャルウェブサイト】<http://www.katokanako.com/>



—2枚目のアルバム「ひだまり」も、好きな音楽をたくさん詰め込んだという感じで楽しいですね。オリジナル曲は、昔懐かしい感じのメロディーが印象的でした。

**かとう**：曲を書くときにはメロディーを重視していて、あまり難しいものは書かないですね。

—ところで、アコーディオンはいつ頃から始めたんですか。

**かとう**：4歳のときです。自分では覚えていないんですが、姉が先にやっていたので、「お姉ちゃんがやってるから私もやる」って言ったらいいです(笑)。

—アコーディオンの練習は好きでしたか。

**かとう**：幼稚園に通っている頃から、家に帰ってきたらまず楽器に触るとするのが日課みたいになっていましたし、両親からも毎日練習するように言われていました。まだ時計が読めない4、5歳の頃は、1つの曲を弾く回数が練習時間が決められていましたが、嫌だと思ったことはありませんでした。

—アコーディオンには、バイエルのような教則本はあるんですか。

**かとう**：16小節のハ長調の曲を右手と左手で合わせて弾く練習をする、といった内容のものはありますが、あまり難しいものはないですね。

—どんな譜面を使うんですか。

**かとう**：ピアノと同じ大譜表で、コード・ネームも併用します。ミュゼットの曲集は、メロディーとコード・ネームだけで書かれています。

—ミュゼットはフランスの民族舞踊ということですが、フランスでは、どんな経緯でアコーディオンが普及したんでしょう。

**かとう**：アコーディオンとミュゼットとは関わりが深く、「ミュゼット」というのはもともと、オーヴェルニュ地方の田舎町でダンス音楽を演奏するときに使われていたバグパイプの楽器の名前でした。その後、オーヴェルニュの人達が

パリに出て、イタリアから入ってきたアコーディオンと出会ったんですね。それで、アコーディオンの方がいろいろな音楽を奏でることができるということで、楽器のミュゼットは次第に脇へ追いやられていきました。そうして、1920年代にはバル・ミュゼットという、ミュゼットの音楽で踊るダンス・ホールがフランスのいろいろな街で流行りだしたのをきっかけに、アコーディオンが普及していったんです。

## ボタン式アコーディオンに出会ったフランス留学

—日本では鍵盤式のアコーディオンがよく知られていますが、かとうさんが使っているのはボタン式なんですね。

**かとう**：はい。ボタン式にはクロマチックやダイアトニックなど、ボタン配列の違う種類がいくつかあります。私が弾いているクロマチックアコーディオンにも、ボタンの配列にはイタリア式とベルギー式があって、私のはイタリア式です。

—それぞれ弾き方が違うのですよね。

**かとう**：左手のボタンは伴奏用で、ベースとコードを弾くんですが、これもイタリア式とベルギー式では配列が逆です。でも、ボタン式のクロマチックアコーディオンは、ヨーロッパでは、私も使っているイタリア式が9割ぐらいを占めています。

—運指はむしろ鍵盤式よりもシンプルだと聞いたことがあるのですが。

**かとう**：そうですね。調性が変わっても、スケールの始まる位置が違うだけで、運指そのものは変わりませんから。コードも押さえ方は調性に関係なく一定です。ギターを弾く人達は「わかりやすい」って言いますね。

—なるほど。でも、かとうさんは高校を卒

業して留学するまで、鍵盤式のアコーディオンを弾いていたんですね。

**かとう**：ええ。フランスに留学するときにも鍵盤式を持って行きましたし、ボタン式を演奏するのを、間近で見たこともありませんでした。でも、パリの市立音楽院に入ったら、鍵盤式を弾くのは私だけで、みんなイタリア式のクロマチックだったんです。合奏していても1人だけ浮いていたので、私もボタン式をやってみようと思って、先生から楽器を借りて、両方でレッスンを受け始めました。最初はボタン式も弾けるようになればいいかなという程度でしたが、やっているうちにボタン式の方がおもしろくなって、メインで使うようになりました。

—ボタン式をすぐにマスターできたのは、やはり才能なのでしょうね。でも、ボタン式のどこにそこまで惹かれたのですか。

**かとう**：最初に借りた楽器が小型だったということもありますが、ボタン式の楽器は音域が広くても鍵盤式ほど大型にはならないので、抱えたときのフィット感が良かったんです。それに、ボタン式はゼロから始めたので、子どもの頃に戻ったような感じで覚えていくのが楽しかったということもありました。

—鍵盤式が主流のイタリアではなく、フランスに留学したのはなぜですか。

**かとう**：イタリア留学も考えていましたし、アコーディオンはドイツでも盛んなので、どこにしようか迷っていたんです。イタリアは治安が悪そうだし、ドイツ人は気難しそうだけれど、フランス人は親しみやすいかなと思ったんです。勝手に思い込みで(笑)。ヨーロッパには行ったことがなかったので、イメージだけで決めました。若気のいたりです。イタリアにはアコーディオニストの大先輩cobaさんが行っているし、ドイツに留学した人も知っていましたが、フランスへ行った人はまわりにまだいないかなっていうのもありました。

—つまり、音楽的な理由は……？

**かとう**：全然ありませんでした(笑)。フランス音楽のことも何も知らなかったです。ただ、

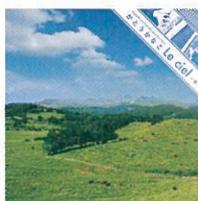
## Discography



『ボナベチ!』  
TAKI'S FACTORY  
TAKI-6001  
¥2,000円(税込) 発売中



『ひだまり』  
Stubborn Record  
STBR-3002  
¥2,800円(税込) 発売中



『Le ciel ~空~』  
スミ企画 CNIMA1353  
¥2,500円(税込) 発売中

# かとうかなこ Kato Kanako

アコーディオンの勉強ができたらどこでも良かったんです。だから、たまに留学の相談を受けることがあるんですけど、どう答えていいかわからないんですよ(笑)。国選びとかはね。

—小学生の頃から日本のアコーディオン・コンクールで何度も1位を受賞していたかとうさんですが、留学中にボタン式に転向してからも、フランス国内のコンクールで毎年1位を受賞したそうですね。相当な努力や苦労があったんだろうなと思っていました。

**かとう:** ボタン式に変えたばかりの頃は、とにかく練習するのが楽しかったので、ほかの人達よりも練習量は多かったと思います。フランスには2年の予定で留学しましたが、ボタン式を始めたのが2年目からだったので、もっとボタン式を極めたいと思っていました。ちょうどその頃、パリの郊外で開かれたアコーディオンの

フェスティバルを観に行き、オーヴェルニュのCNIMA国際アコーディオン学院のことを知ったんです。パリの市立音楽院は週に3日しか授業がありませんでしたが、そこでは授業が毎日あって、アコーディオンの勉強に集中できるということだったので、パリの学校からそこへ転校して、さらに2年勉強したんです。

## もっとアコーディオンを知ってみたい

—これまでアコーディオンを続けてきて、壁に突き当たったりしたことはありませんか。

**かとう:** 高校生になって3度目のコンクールを受けるとき、過去に受けた2度のコンクールで優勝していたので、「今度も優勝して当然だ」みたいなことを言われたんですね。そのときに、

「優勝できなかったらどうなるんだろう……」と思って、アコーディオンが嫌になりかけたことはありました。でも、「優勝できなかったらまたがんばらばいいんだ!」とすぐに考え直しました。留学中にも、「このままアコーディオンの勉強だけやっても大丈夫なのかな?」って、心に迷いが生じたことはありましたが、楽器を見ているだけで幸せになれるくらいアコーディオンが大好きなので、やめたいとは思いませんでした。

—ところで、最近ではローランドのVアコーディオンも使い始めたそうですね。

**かとう:** 1年ぐらい前から使い始めました。1台でいろんな音が出せておもしろいなと思いますし、アコースティックとは違う役割ができると思います。

—今後の演奏活動もアルバムと同じく、あえて方向性を決めずにいろいろなものやっていたいというところなんですか。

**かとう:** 所属している事務所が北欧のアーティストを招聘している関係で、最近では北欧の音楽にも影響を受けています。いろいろなものに影響を受けながら、オリジナルも書きたいと思います。可能性はまだあります。今、20~30代の女性で「アコーディオンを弾きたい」という人が増えているんですよ。でも、アコーディオンという楽器自体は知っていても、この楽器を主役にした演奏を間近で見たことがないという人はまだまだ多いので、アコーディオンをもっとたくさんの方に知ってもらえるようコンサート活動に力を入れていきたいと思っています。

—これからのかとうさんの活躍がとても楽しみです。今日はありがとうございました。

**かとう:** ありがとうございました。



### ■コンサート・スケジュール

- クロマチックアコーディオンライブ in Shoukadou  
9月23日(日・祝)  
京都 松花堂庭園・美術館
  - 丸の内 カンタービレ Vol.2  
9月28日(金)  
東京 ニッポン放送 イマジン・スタジオ
  - フレンチブルーミーティング  
10月13日(土)・14日(日)  
長野 車山高原
  - 「かとうかなこ×アコーディオン」生音ライブ  
10月21日(日)  
兵庫 神戸クレオール
  - 10月27日(土)  
和歌山 デサフィナード
  - 11月15日(木)  
東京 渋谷7th FLOOR
  - 12月16日(日)  
奈良 大和郡山城ホール
- 問: ハーモニーフィールズ 072-774-8838